



11月も2週目が終わろうとしております。

子どもたちのあそびも屋内が中心となり、園舎の中は教室もホールも廊下も、そして、階段はどちらの階段下も子どもたちの歓声で溢れております。

年少・中の教室から流れてくるリズム打ちの音、まだまだこれからだナ！と感じますが、年長の教室からのハーモニカの音色は、さすがの上達ぶりを感じさせてくれます。

■ ドッチボールのルールと言っても、子どもたちは簡単に理解できるものではありません。

スタッフの説明を聞いて理解できる訳ではありません。実際にゲームしながら理解していくのです。

運動会の翌日からドッチボールの活動がはじまりました。

連日、珍プレーが続出で、最初の内は爆笑の渦でしたが、その内に「エ〜！また同じこと!!」「おほえて〜っ!」と。

でも、最近はずっと珍プレーが出るもののみんなはしんけんそのもの! ルーズボールを必死で追う者、逃げる専門の子どもたち、剛球を投げる者、それを見事に受ける者と上達して来た子どもたち。クラスをふたりに6チームによるドッチボール大会です。

■ 生活発表会についてお知らせをしておきます。

会場は例年どおり教育文化会館の小ホールです。

コロナ対策として、会場への入場は1家庭1名とさせて頂きまので、ご了承下さい。なお、座席は指定席で、抽選させて頂きます。



白ゆりメモ

1. 設立・開園が昭和47年(1972年)の4月でした。4学級160名の認可でした。

園長以下8名のスタッフでした。
クラスには43名を超える園児たち。
毎年定員をバ回して、行政の目と近隣園の助けをかけた。スクールバスはオポロで毎朝若い園長がハンドルを握っていました。

幸せを感じる能力

私たちは、誰もが「幸せを感じる能力」を持っています。同時に、不満や不安を感じる心も持っています。

この「幸せを感じる能力」を上手に使って行く努力をしなければ、知らず知らずの内に不満や不幸を感じる心ばかりが膨らんでしまい、幸せな感情が薄らいで行くことになりかねません。

能力とは、物事を為している力のことであり、使えば使うほどに伸びるものです。

自分自身の中にある「幸せを感じる能力」をどのように伸ばして行くかが、これからの人生を切り拓くための大切な鍵になるのではないのでしょうか。

— 月刊誌 ニューモザレ —

私は、これまで、ブツブツ不平や不満ばかり言っている人を良く見かけて来ました。でも、一切 そんな事を口にせず、黙々と生活をしている人も沢山見かけて来ました。

人と言うのは、自分の事は棚上げにして不平・不満の要因を他に求めるきらいがあります。自分自身を反省しなければなりません。

この歳になって強く感じるのは、とととと若い時に、この教えにめぐり逢ったかたということなのです。